

『傾斜屋根』について

基本的考え

建築物の屋根は、私達の生活において最も根源的な役割を果たすとともに、町の地表面の広い部分は屋根によって占められていることから真鶴町の豊かな美しい景色（『眺め』）を差配するものです。

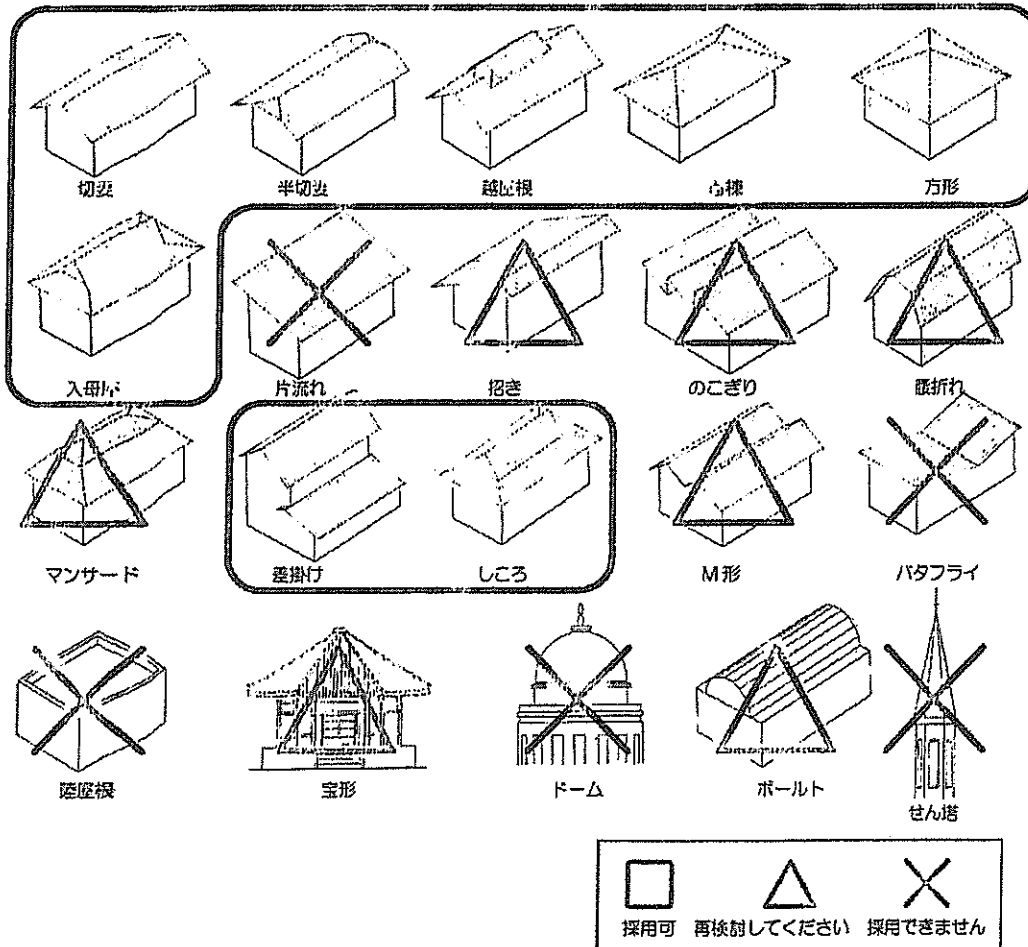
屋根は、建築物の一番重要な部分に大きく高い屋根を設け『母屋』に仕立て、段階的に小屋根を張り出し（『舞降りる屋根』）、大地のかたむきにそった傾斜をつけ人々が大きく包み込まれるように作ること（『守りの屋根』）。

『眺める場所』を独占しないように、できる限り大地を壊さず（『斜面地』）、斜面地に逆らわないように計画すること（『斜面に沿う形』）。また、建築物の『見付けの高さ』は可能な限り小さくし、北側頂部をなるべく低くおさえること（『北側』）。屋根の材料（『自然な材料』）、屋根の端部（『軒先と軒裏』）、屋根の頂点（『屋根飾り』）には、注意を払い町に独自の装飾を生み出すようにすること。

『 』は、「美の基準」で屋根に関連するキーワードです。

屋根の形状について

以下は、前記の基本的考えに基づいた屋根の形状についてガイドラインとなる参考図です。



屋根の勾配について

屋根の勾配は、気候風土や敷地条件、屋根材などによって決定します。例えば、瓦（焼成粘土瓦）では勾配が4/10～5/10程度が一般的です。これよりも緩い勾配だと雨漏れしたり、強風時に雨仕舞いが効かなくなります。また急な勾配だと瓦がずれ落ちたり、材料の使用量が増え、屋根の重量がかさみます。

屋根材に求められる性能として、防水性・耐風性・耐候性・防火性・施工性などがありますが、全てにおいて満足できるものは存在しません。気候風土や敷地条件によって、条件に沿った性能を持つ屋根材を選択することになります。

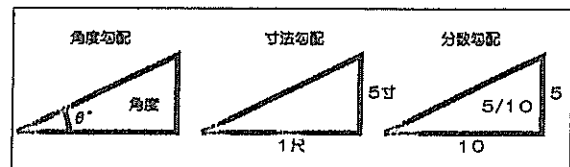
屋根の勾配や架け方は、建築物の印象に深く係ることから、周囲との調和をもって屋根勾配を計画してください。

真鶴町では既存住宅地で多くみられる、屋根勾配が4/10を基本とします。

屋根材料	寸法勾配	分数勾配
陸屋根（アスファルト防水等）	1分～2分	1/100～1/50
長尺折板	1寸～2寸	1/10～2/10
瓦棒長尺板	1寸～2寸	1/10～2/10
平板金剛板	3寸～	3/10～
住宅用屋根スレート	3寸～	3/10～
波形スレート	3寸～	3/10～
波形亜鉛鉄板	3寸5分～	3.5/10～
厚形スレート	3寸～4寸	3/10～4/10
焼成粘土瓦	4寸～5寸	4/10～5/10
草	6寸～矩	6/10～10/10

※屋根勾配は、流れ長さによって変化します。
また、気候と屋根の傾斜によっても変化します。

屋根材料と勾配



勾配の表し方

- ・屋根面が見えるように、緩勾配の屋根は避けるようにしましょう。
- ・周囲よりも際立たないように、急勾配の屋根は避けるようにしましょう。
- ・周囲よりも間口が広い建物の場合、棟の方向を十分に検討して周囲よりも高い建築物にならないように計画してください。